

二〇二四（平成二十六）年 沖縄県知事選挙

# 誇りある豊かさを！

—イデオロギーよりアイデンティティー。大いなるソフトパワーで沖縄を拓く—

平和・誇りある豊かさを！ ひやみかち うまんちゆの会

予定候補者

## ◇◆◇ 目 次 ◇◆◇

1. 県知事選挙出馬にあたっての基本的な認識	3
2. はじめに:今、堂々と、誇りある豊かさを	4
3. 希望の力:沖縄の未来を拓く、ソフトパワー	6
4. 基本政策:3つの視点から、沖縄の未来を拓く	11
5. 実施政策:沖縄の笑顔が輝く、政策を実行に!	12
6. 断固反対:県民とともに貫く、3つのNO!!	32
7. 重点施策: 沖縄の未来へ夢が広がる、10のYES!!	33

## 県知事選挙出馬にあたっての基本的な認識

- ▶建白書で大同団結し、普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設断念、オスプレイ配備撤回を強く求める。そして、あらゆる手法を駆使して、辺野古に新基地はつくらせない
- ▶日本の安全保障は日本国民全体で考えるべきものである
- ▶米軍基地は、今や沖縄経済発展の最大の阻害要因である。基地建設とリンクしたかのような経済振興策は、将来に大きな禍根を残す
- ▶沖縄 21 世紀ビジョンの平和で自然豊かな美ら島などの真の理念を実行する
- ▶アジアのダイナミズムに乗って動き出した沖縄の経済をさらに発展させる
- ▶大いなる可能性を秘めた沖縄の「ソフトパワー」こそ、成長のエンジンである
- ▶新しい沖縄を拓き、沖縄らしい優しい社会を構築する
- ▶平和的な自治体外交で、アジアや世界の人々との交流を深める

## 今、堂々と、誇りある豊かさを！

「次は我々が試される。沖縄が試される」

十万人を超える人々が結集した県民大会、「建白書」を政府に突きつけた東京行動。「県民の心がひとつ」になり、固く結ばれた「オール沖縄」に、一点の揺るぎもなかった、その頃から、私は、ことある毎に、その言葉を口にしていました。私には、行く末に立ちほだかる大きな試練と苦難が十分に予見できていたからです。

果たして、その不安は的中し、一年も経たないうちに、中央政府は、限りを尽くし、「オール沖縄」の輪から、力づくで、ひとり、またひとりと、仲間をひき剥がしていきました。ただただ頭を垂れるだけの県選出国會議員と、その傍らで、ほくそ笑む権力者という、屈辱的な構図は、かつての琉球処分を想起させ、県民の脳裏に悲しい記憶を刻みました。分断統治は植民地支配の常套とばかりに、県民に、次々と踏み絵を踏ませ、権力は、ついに、その本性を露にしてきたのでした。

しかし、どんなに強権が発動されようとも、私たちは、絶対に、ここで、屈してはなりません。これまで何百年にわたって先人達が、散々、なめさせられてきた苦汁。その苦しみに比べれば、今の私達の苦労は全く大したものではありません。悲しい白黒闘争を繰り返してはならない、もうこれ以上、県民同士がいがいみあい、親子や兄弟といった近しい仲までもが裂かれてしまう悲劇はあってはならないのです。

かつて、私達は、自らが持ってきたわけではない「基地」を挟んで、「経済」か「平和」かと、常に厳しい二者択一を迫られてきました。しかし、社会情勢の変化とともに、この両者は、決して相反するものではなくなりました。観光客で賑わう北谷町美浜地区、勢いが感じられる那覇市新都心地区。これらの地区の飛躍的な発展は、かつての基地経済の恩恵を遥かに凌駕していることは誰の目にも明らかです。今や基地は沖縄経済の最大の阻害要因であると言っても過言ではないのです。

私達は、もうこれ以上「基地」を挟んで左右に分かれる必要はないのです。苦渋の選択を強いられる必要もないのです。沖縄では、もはや保守が革新の敵ではなく、革新が保守の敵でもありません。いたずらに保革の対立を煽る手法はもう過去のものなのです。私達は、これまで相反していた「経済と生活」「平和と尊厳」を県民一人一人が手にすることができるようになりました。このことをしっかりと自覚した上で「我々が試される」のならば、今こそ、「負きてえならん。うしえーらっていならん。なまどう うちなー」の心意気のもと、誇り高きアイデンティティーにかけて、明確な意思を示さなければなりません。

今、私達に強く求められているのは、次の時代を担う子や孫の世代に、禍根を残すことのない責任ある行動なのです。

豊かな文化や伝統、静かに流れる時間、人々の優しい微笑み、これら全てが織りなす独特の空間が、この沖縄には広がります。国内外の多くの観光客を惹きつけ、そのポテンシャルを認めた外国資本は参入意欲を示しています。発展著しい東アジアの中心に位置し、物流ビジネスにも光明が見えてきました。

今や、経済と生活、平和と尊厳の双方を同時に享受することができるようになりました。私達は、今、誰にも恥じることなく、前を向いて堂々と、誇りある豊かさを手にすることができるようになったのです。

成長著しいアジアのなかで、かつての万国津梁の精神を存分に発揮し、豊かな自然や歴史、魅力あふれる文化と伝統に彩られ、大いなる可能性を秘めたソフトパワーで沖縄の未来を拓いていくことこそが、私達の掲げる新たな旗印となるのです。

私の胸中にあるのは、常に、イデオロギーよりアイデンティティー。もう一度、この言葉のもとに、県民の心をひとつにし、様々な困難を乗り越えていこうではありませんか。私たち自身の手で、大いなる可能性を秘めた沖縄の明るい未来を拓き、誇りある豊かさを手にしようではありませんか。

平成 26 年 10 月 21 日

## 希望 の力

# 沖縄の未来を拓く ソフトパワー

先人達によって培われてきた伝統、万国津梁の精神でアジアに雄飛した誇れる歴史、見る者をとりこにする豊潤な文化、東洋のガラパゴスとも言われる亜熱帯の自然、心地よい南風が頬を撫でながらゆっくり流れる時間、人々が投げかける優しい微笑みなど、この沖縄は、いつも人々を惹きつけてやまない独特の温かく優しい空気に包まれています。

これらのひとつひとつが無限の可能性を秘めたソフトパワーであり、沖縄の未来を拓く新しいエンジンとなります。

国内外の多くの人々を魅了する沖縄のソフトパワー。そのなかにある「地域力」「文化力」「伝統力」「人間力」「自然力」「離島力」「共生力」「経済力」など多くの魅力が、それぞれ折り重なることで、全体を、さらに温かく包みこむ大きな力となります。

南海に栄える島々からなるこの土地にこそ見えざる大きな引力が働き、そこに暮らす人々にこそ光輝く魅力があるのです。沖縄（うちなー）、地の（じーぬ）引力、人の（ちゅぬ）魅力。この力が最大限に発揮される時、私達は、堂々と「誇りある豊かさ」を手にすることができます。

## 地域力

今、日本は出口の見えない長いトンネルにいます。世界に例をみない少子高齢化社会、人口減少社会、成熟社会の同時進行に伴い、確実な答えがないまま、国が向かう方向を試行錯誤しています。これまでの経済成長型社会体制からの脱却を先送りしてきた我々は、未来の子や孫へ責任ある方向性を示さなければなりません。「地域力」は、その脱却への一つのキーワードです。

「地域力」とはまさしく「地域の力」です。それでは沖縄県の地域力とはなんでしょう。それは市町村や自治会を単位とする地域の力の集合体でなければなりません。地域の人材による地域のためのまちづくり、これが基本になければなりません。

私が協働のまちづくりに挑戦しつづけているのは、この大きな構図を描き構築するためです。

辺野古の問題でも、名護市という地域の意思が最優先で尊重されなければ、日本の将来に光は灯らないでしょう。名護市や北部地域の発展を阻害する基地の移

転は、地域力の醸成に逆行するものです。離島振興に力を入れなければならないことも、人が定住し地域力を高め、沖縄県全体の地域力につなげることにあります。「地域力」があってはじめて、沖縄が日本再生の原動力になり得るのです。

## 文化力

世界遺産である「琉球王国のグスク及び関連遺産群」、ユネスコ無形文化遺産である「組踊」、世界に広がる空手・古武道の発祥地沖縄、この小さな島に世界的に認められた重要な文化遺産が溢れています。

小さな島ながら戦後から冷戦構造下に続く、国際的な政治の渦に巻き込まれてきたにもかかわらず、沖縄の先人たちは誇りある文化を守り継承してきました。今こそ私たちは、沖縄文化の源流を確認し、その価値を見つめなおす時期がきています。

私が、那覇市でいち早く「ハイサイ・ハイタイ」運動に取り組んできたのは、沖縄文化を支える「しまくとぅば」の消滅は全ての沖縄文化の消滅を招くという強い危機感からです。今では、議会をはじめ公式の場でも「しまくとぅば」が使われるようになりました。沖縄のアイデンティティーは「しまくとぅば」なくしてあり得ません。文化の担い手の育成をはじめとする文化の継承、発展への環境づくりに本気で取り組まなければ沖縄の未来はありません。

## 伝統力

“沖縄らしいやさしい社会”それは、沖縄の人たちの行動、発言、思想及び習慣という、日常生活のなかで長い年月をかけて培われてきたものです。それは決して他が真似することのできない貴重な重い歴史的な存在です。

琉球独特な伝統的風習、伝統行事、食文化、伝統工芸品。そのどれをとっても、その根底には、命どう宝、ユイマール、イチャリパチョーデーなど、沖縄が築き上げてきた伝統力があります。今、私たちは沖縄の現状がその独自の伝統の上に成り立っているものなのか、外的要因によるものなのか、冷静に見つめ直す時期にきているのではないのでしょうか。そこにはイデオロギーの存在はなく、沖縄らしいやさしい社会のみぞ存在すると確信するものです。

そしてそれが、私の政治姿勢の原点である「21世紀はイデオロギーを乗り越えた、県民本位の政治が必要である」に辿り着くのです。

## 人間力

今、沖縄の「やさしい社会」が注目されています。一般的に人間力とは、社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力といわれています。そこには、学力などの知的能力的要素、コミュニケーションスキルなどの社会・対人关系的要素、意欲や忍耐力などの自己制御的要素など様々な要素が要求されます。

しかし我々は、沖縄の人々に潜在する「やさしい人間性」をこれに加えることを忘れてはなりません。これは、決して意識して醸成されたものではなく、先祖代々、DNAに刻み込まれ自然に受け継がれてきたものです。

我々が目指す人材とは、人間力の要素に沖縄独特の価値観を加えた総合的にバランスがとれた人材です。まさしくそれが沖縄から世界に発信できる貴重な財産になり得るものと信じ、人間力を高める施策を展開します。

## 自然力

今、世界規模で環境破壊が進んでいます。人口割合が多い国々の先進国化の速さと環境対策の遅れは、地球全体への環境負荷となって進行しています。

沖縄は世界に誇る海やサンゴに代表される豊かな自然を有し、“環境の島沖縄”ブランドを全世界に発信する素地をもっています。

私が、那覇市で環境ISO14001を取り入れ職員の意識改革から着手し、全市民レベルで、ごみ問題の解決を率先して実行したのは、環境分野での沖縄ブランドの確立を最終目的としています。この取組みは、環境先進都市として、海を超えベトナムの地で受け継がれ、アジアの目標となるモデルにまで発展しました。

辺野古の問題はこの視点からも、沖縄の財産を消滅させ、環境ブランドを自ら放棄する行動に他なりません。



## 離島力

大小160の島々が、東西約1,000km、南北約400kmの海域に点在し、日本の領土として、しっかりと領海、空域、排他的経済水域を守っています。これが沖縄県なのです。海洋資源は、油田、天然ガス、レアメタルを含む鉱石、メタンハイドレート、海底熱水鉱床と将来性に満ちたものがあります。また、海洋自然環境を活用した再生可能エネルギーや海洋生物資源を利用したマリンバイオテクノロジー産業など、その可能性は無限に広がります。

この離島力を維持するためには、定住人口を増加させる魅力ある生活環境整備が不可欠です。私たちは県民全体で離島地域を支える仕組みを構築しなければなりません。

私は、那覇市民が離島で宿泊することに援助をする「島たび助成」を実行し、本島、離島の県民が喜ぶ姿をみて沖縄県民の可能性を確信しました。ユイマール精神で離島力を醸成する政策を力強く推進します。

## 共生力

沖縄には、「いちゃりばちよーでー」という黄金言葉があります。沖縄に住むすべての人が心の内に持つ尊いマインドであり、共生力を端的に示す言葉です。

遙か14世紀もの昔から、時代を先取りするかのようにアジアを中心に人と文化の交流を築いてきた我が琉球の先人たち。万国津梁はまさしく沖縄が世界の架け橋となることを、沖縄の人々が過去、現在、未来にわたって追い求める大きな夢です。

その夢の実現のため、私たちは、国籍や民族などが異なる人々が、互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築き、地域社会の構成員として共に生きていく社会の実現に向かって邁進していかなければなりません。

自然を共有する複数種の生物と相互関係を持ちながら共に生きていくことも、求められる共生力です。そして究極的には、企業と企業、企業と消費者、自国と他国、人間と自然が共に生き、信頼を優先する社会を構築することを目指します。

## 経済力

基地依存経済はすでに過去のものとなりました。それは、那覇新都心地区、北谷町美浜地区の発展をみれば一目瞭然です。沖縄には、地政学的な優位性、文化、伝統、自然、人間性、そして何よりも平和を希求する「真のソフト・パワー」があります。そこには、人を引き付け、成熟社会を更に発展させる可能性を秘めた無限の素材があります。その魅力の存在は、日本で数少ない人口増加地域であること、実質成長率予測でも日本で1位であること、外資の著しい進出など市場が認めていることで証明されています。

今後、沖縄に必要なのは、真のソフト・パワーを産業化した政策です。私たちは沖縄がもっているその素材にいち早く気づき、沖縄の人間力で産業化への道を切り開くため、挑戦をしつづけなければなりません。

経済学における生産の三要素は土地、労働、資本です。人材と資本が揃っても土地がないと成り立たないのです。わが沖縄県は県土の10.2%、沖縄本島にいたっては、18.4%もの豊かな土地を基地に取られており、基地の整理縮小への闘いは経済発展の側面でも避けて通れない道なのです。そして基地の存在が真のソフト・パワーを実行する阻害要因なのは、観光産業からの視点一つとっても明らかです。それを沖縄県民自ら認めることは、沖縄の自虐行為そのもので、辺野古新基地建設に反対していくことは、経済発展にも大きな意味をもつことを忘れてはなりません。

## 3つの視点から、沖縄の未来を拓く

人々を惹きつけてやまない、この沖縄に秘めた大いなるソフトパワーを活かし、沖縄の未来を拓きます。3つの視点から沖縄を拓き、うまんちゅの笑顔が輝く、沖縄を創りあげます。

### 沖縄の「経済」を拓く

#### —経済発展プラン—

これまでの沖縄振興予算は、大半が県外企業に還流するザル経済といわれ、その恩恵は県内企業には十分に行き渡っていません。振興予算が県内に蓄積され、地元企業に経済的な効果をもたらすような施策を推進するとともに、最近の外国資本の積極的な参入など地理的優位性を活かした新たなビジネスの動きをしっかりと捉えながら、その効果が実感される広範な経済発展施策を展開します。

### 沖縄の「幸せ」を拓く

#### —生活充実プラン—

人と人を結ぶ絆は、協働のまちづくりの礎となり、本当の幸せを感じさせてくれます。子どもや高齢者の笑顔が輝き、女性や障がいのある方等の力が正しく活かされる活気に満ちた社会を創り上げていきます。それぞれの地域の誇れる宝を大切にしながら、そこに住む人、働く人、学ぶ人、交わる人、全ての人々が尊重され、そこに熱い息吹が感じられる生活充実施策を展開します。

### 沖縄の「平和」を拓く

#### —平和創造プラン—

今、過重な基地負担に立ち向かうことができるのは、先人達の土地を守るための熾烈な「島ぐるみ闘争」で、うちなーんちゅの誇りを貫いたからです。戦争が起これば真っ先に基地が標的にされ、この小さな島々の平穏な暮らしは、たちまち脅かされることとなります。基地の整理縮小を加速化し、豊かな生活に導く土地活用を図るとともに、近隣諸外国との平和交流を促進する平和創造施策を展開します。

## 実施 政策

# 沖縄の笑顔が輝く、政策を実行に！

沖縄の「今」を直視すると、早急な手立てが求められる分野が見えてきました。  
幅広い分野を網羅した実施政策に重点的に取り組みます。

# 1

## 人財の育成・自立から自活への経済発展資源の創出

- 沖縄の資源となる人財育成に取り組みます。
- 外交部を新設し、アジアをはじめ、世界各国との経済・米軍基地対策・教育・人事交流の促進を図り、自活への経済発展資源の創出に取り組みます。
- 新設の外交部を活用し、世界のウチナーンチュ ネットワークの活用を図ります。
- フィリピン、ダバオとの歴史的な強みを生かし、経済・米軍基地対策・教育・人事交流等の促進を図り、姉妹都市提携の可能性を図ります。
- サイパン、テニアンとの歴史的な強みを生かし、経済・米軍基地対策・教育・人事交流等の促進を図り、姉妹都市提携の可能性を図ります。
- 新設の外交部を活用し、世界のウチナーンチュネットワークの有効活用を図ります。
- 県民総ぐるみの道德教育の強化推進を図ります。
- 沖縄県LGBT宣言をし、環境整備に取り組みます。
- ODA 活動支援策として、アジア諸国の不発弾処理に対応するため、沖縄の優れた磁気探査技術の導入促進を図ります。
- 成長するアジア経済に連動する「アジア経済戦略構想」を策定し、自立経済発展の礎をつくります。
- 産学官の連携により、沖縄の自立的発展を支える多面的な人材(財)を育成します。
- 沖縄型環境モデルを経済発展資源として活用する戦略を展開します。
- 6次産業化の推進と観光産業の連携による自立経済の発展を目指します。
- 世界遺産・文化遺産・伝統工芸などに高付加価値を付けた産業化を図ります。
- 世界遺産など貴重な文化空間と共生するまちづくりを観光資源として活用します。
- 空手・古武道、組踊、琉球舞踊、エイサーなどの文化資源を守り育てながら観光資源化を図ります。
- 沖縄のソフトパワーを重要な産業資源として新産業を創出する施策を推進します。
- 仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスを重視した環境づくりに取り組み、女性が輝く社会をつくるとともに、女性リーダーを育成します。
- 男女共同参画社会の実現に沖縄県(庁)が率先して取り組みます。

## 2 社会資本・産業基盤の整備

- 那覇空港、及び離島空港の民営化を推進し、更新整備、機能向上に取り組みます。
- 那覇港を那覇空港と一体とした民営化を推進し、国際コンテナターミナル、ロジスティックスセンターの整備、国際交流、物流拠点の形成に必要な港湾機能の強化に取り組みます。
- 那覇軍港の早期返還を求め、過密する那覇空港、那覇港の有効活用を図り、県経済発展のさらなる躍進のために取り組みます。
- 高速道路料金の無料化を求め、県土全域の均衡ある発展に取り組みます。
- 沖縄都市モノレール事業を西原町東海岸まで延伸し、南部市町村を経て、那覇空港までLRTやモノレール等のフィーダー交通網の構築に取り組みます。
- 南北を縦貫するの鉄軌道を導入し、LRTなど各地域内の循環路線と結びつけ、それぞれ地域の活力の原動力となる次世代型交通ネットワークを構築します。
- 那覇空港滑走路増設の早期完成に向け諸課題に全力で取り組みます。
- 港湾施設整備を拡充するとともに臨港道路・背後地などの整備に取り組みます。
- 本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網の構築を図ります。
- 沖縄都市モノレール延長事業を石嶺駅の先行開業を含めて継続して実施します。
- 日本本土及びアジア主要都市との国際的な交通・物流ネットワークを構築するとともに、移動・輸送コストの低減や物流対策の強化に取り組みます。

### 3

## 沖縄らしい観光経済の形成

- 沖縄観光の高度化を図り、経営・生産向上のため産官学による「観光戦略会議」を設置し人材育成と受け入れ体制の強化を図るための「観光基金」を設置します
- マリンレジャーライフガード従事者の地位向上と支援に取り組みます。
- 観光と産業(ショッピング、レジャー、シーフードレストラン、インバウンド商品開発)とのマッチングを図ります。
- 体験型観光を推進し雇用の拡大と人材育成、所得向上を図ります。
- 外国人観光客にやさしい沖縄を目指し多言語のインフラ整備を推進します。
- 外国人観光客に対応する人材バンクを設置します。
- 国内・国外観光客の誘客を戦略的に実施し、2021 年を目処に、観光客1200万人超、観光収入 1 兆円超を目指し県民所得向上に努めます。
- 国際的海洋性リゾートの形成を図る港湾機能の整備、クルーズ船に対応した港湾施設整備と母港拠点化を推進します。
- 国際的観光推進地域の形成を目指し、大型MICE施設整備を積極的に推進します。
- 観光の質の向上、観光関連産業の所得向上を目指し地場産業の情報の提供を推進し、マッチングを図ります。
- 沖縄の温暖な気候を活かし、プロ野球をはじめとする各種スポーツのキャンプ・大会を誘致し、アスリートの治療・機能回復に貢献するスポーツ療養地としての「スポーツアイランド沖縄」の確立を目指します。
- 「沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に取り組み、沖縄の貴重な自然をグリーンツーリズムとして活用する新たな観光戦略を展開します。
- J1対応の本格的なサッカー場を建設網羅整備し、国内外チームの誘致を図ります。
- 沖縄観光産業の創出、国際観光地形成のための観光総合インフラを整備促進します。
- 離島の魅力を発信する着地型体験交流観光を推進し、島嶼性豊かな沖縄の広域観光の発展を図ります。
- 奄美大島などの琉球弧を網羅した広域観光の推進に取り組みます。

## 4

## 産業の振興と雇用の創出・安定

- 入札の不調・不落の改善に取り組みます。
- 総合評価など公共工事の入札のあり方を改善し、新規参入機会の改革に取り組みます。
- 沖縄特産の商品開発を図り、物流コストの低減、後継者不足の解消に取り組みます。
- 中小企業診断士等の活用や中小企業プランナーを充実させ、中小企業の支援を図ります。
- 総合評価など公共工事の入札のあり方を改善し、新規参入機会の改革に取り組みます。
- 既存の物流、経済特区・地域制度を改善し、経済産業振興を促進します。
- 県経済の安定化の観点から現行の揮発油税等の軽減措置の延長を求めます。
- 情報通信関連企業の長期的な戦略を構築するとともに、県内のIT産業の国際競争力を高めます。
- 情報通信関連産業と観光・文化・環境をはじめとする他分野との連携による沖縄独自サービスの創出に取り組みます。
- 県内産業に海外情報の提供ができるネットワークを構築するとともに、海外展開に向け、マーケティング調査・物流効率化、契約手続など包括的な支援を行います。
- 沖縄科学技術大学院大学や琉球大学、国立沖縄高専などの県内高等教育研究機関との連携を強化し、新産業創出を推進し、地域文化・科学技術の振興を図ります。
- 今後成長が見込まれる「健康・医療」「環境・エネルギー」分野において、沖縄の地域特性を活かした産業の集積を図ります。
- 海洋資源調査・開発の支援拠点を沖縄に形成するための取り組みを推進します。
- 琉球料理や琉球泡盛のユネスコ無形文化財登録による沖縄独自の食文化をつくりあげるとともに、県産食材の活用を図ります。
- 酒税軽減措置の延長を求め、泡盛・ビール業界の体力強化と振興を図ります。
- 中小企業等の経営革新、創業、経営基盤強化、資金調達の円滑化等の総合支援を推進します。
- 多様化・高度化する建設関連産業の技術者・技能者の育成を支援します。
- 県内企業優先発注、下請の県内企業優先、県産品(資材)の積極活用を図ります。



- ものづくり産業における県内調達率向上に取り組めます。
- 産業振興と連動した雇用機会を創出し、沖縄の産業を担う人材を育成します。
- 沖縄の優位性を活かした経済施策の展開により、県民所得の確実な向上を図ります。
- 基地返還に伴う駐留軍労働者の雇用の確保に努めます。
- 正規雇用の拡大、所得の向上など雇用の質の改善に努めます。
- 職業訓練などを通して、若者の社会参加を支援します。

## 5

## 農林水産業の振興

- 農林水産業と観光・健康・環境との関連産業連携を推進します。
- 基幹産業である観光産業に特化した農産物市場の設置と加工を推進します
- 沖縄型のつくり育てる漁業・養殖技術の推進を図ります。
- 人財育成及び新規就労者の支援を図ります
- 遊休地、耕作放棄地の有効活用に草地バンクや基金を創設し支援します。
- 県内の食料自給率の向上を図るため、学校給食やホテル、飲食業、スーパー、コンビニエンスストア等での地産地消を推進します。
- 農薬に依存しない農業を目指し、国際衛生基準の技術を確立し海外販売路の強化拡大を推進します
- 沖縄農産品ブランドの向上と県外国外へのPR活動を推進します
- 農林水産業の安定供給・経営を目指し農業法人化を促進します
- 農家の経営安定のため特別個別所得補償制度、農業収入を補償する(デカップリング法)の導入を図ります
- 農林水産業の安定経営を図るための基金とチャレンジ事業助成金を創設します。
- 6次産業及びフロンティア型産業など高付加価値をもった産業の育成に取り組みます。
- 畜産物、野菜、果樹、花き、水産物などの農林水産物の付加価値を高めるために、生産、加工、流通の一体的な振興を図ります。
- 農林水産業の生産基盤の整備・保全を推進します。
- 沖縄の漁業振興の阻害要因となっている米軍の制限水域の解除を国に求めます。
- 沖縄の農業の発展を阻害するTPPに反対します。
- 農林水産業は亜熱帯気候を活かした沖縄ブランドを確立し、国内・海外市場を視野に入れた取り組みを支援します。
- 水産業においては沖縄型のつくり育てる漁業の確立を図ります。
- 農林水産業の流通・販売・加工対策の強化及び安全・安心の確立を推進します。
- 農林水産業の人材育成及び技術開発等を支援し、6次産業及びフロンティア型産業など高付加価値をもった産業の育成に取り組みます。
- 農林水産業の生産基盤の整備・保全を推進します。
- 県内の食料自給率の向上に取り組みます。
- 学校給食やホテル等での地産地消を推進します。
- 沖縄の漁業振興の阻害要因となっている米軍の制限水域の解除を国に求めます。

- 畜産物、サトウキビ、野菜、果樹、花き、水産物などの農林水産物の付加価値を高めるために、生産、加工、流通の一体的な振興を図ります。
- 耕作放棄地の農地としての有効活用に向け、抜本的な対策に取り組めます。

## 6

## 地域力の向上・くらしの向上

- 沖縄県における消費税の減額、見直しを求めます。
- 安保税の創設を求めます。
- 沖縄県における沖縄全土の関税撤廃（税制特区の創設）を求めます。
- 沖縄県の防災力向上を図るために自治会加入率の促進に努めます。
- 人と人との支えあう協働のまちづくりを全県的スローガンとして推進します。
- 市町村と連携を強化して、中心市街地の活性化に対する取り組みを強化します。
- 新たな基金の創設により、自治会や老人会、婦人会、青年会、子ども会など地域を支える団体を支援するとともに、地域を支える人材を育成します。
- 地域の特色を活かした地域のブランド化・差別化を進め地域を活性化させます。
- 住民サービスの最前線にある市町村と連携した住民目線のまちづくりを進めます。
- 沖縄の独自性や自主性が発揮される地域主権のあり方を探求します。
- 過疎・辺地地域の定住環境の整備に取り組みます。
- 学校・地域と連携し「地域を大切に、誇りに思う健全な青少年」を育成します。
- 協働のまちづくりを基盤に民生委員・児童委員の充足率向上を図り、全ての人が人としての尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築を目指します。
- 公営住宅での多子世帯優先入居など少子高齢化社会対策を戦略的に進めます。
- 情報通信技術を駆使した電子自治体の構築及び教育分野への活用を図ります。
- 島しょ県沖縄の課題克服のため地域特性に応じた生活基盤の整備、高度情報通信ネットワークを活用した対応策の構築に取り組みます。
- 消費経済に影響を及ぼす増税に反対します。
- 生き甲斐を高め、地域力を支える生涯学習社会の構築に取り組みます。

# 7

## 美ら島の自然環境保全

- 「沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録実現に取り組みます。
- 外来種対策のさらなる取り組みと、在来種保護に取り組みます。
- ヤンバルクイナ、ノグチゲラなどの絶滅危惧種をはじめ貴重な動植物が生息するやんばるの森を保全します。
- ジュゴンや世界有数のアオサンゴ群が生きる辺野古の貴重な海を守ります。
- 生物多様性を守り、その魅力を積極的に世界に発信し、地球規模の環境問題に貢献できる施策を展開します。
- 世界に誇れる環境モデル沖縄の構築を目指します。
- 世界屈指の観光都市を目指し緑化政策を強力に推進します。
- 県民の環境意識を喚起しながら、再生可能エネルギーを推進するなど、環境共生型ゼロエミッション・アイランドに向けて取り組みます。
- 原発の建設に反対し、沖縄の特色を活かしたクリーンエネルギーを推進します。
- 低炭素社会の実現に向け公共交通の利用を促進しながら幅広い対策を図ります。
- サンゴ保全増殖の研究・開発に取り組み、沖縄発の技術革新を目指します。
- 犬猫殺処分ゼロを目指し、命が尊重される動物愛護の政策に取り組みます。

## 8

## 誇り高きウチナー文化の普及促進

- 「琉球歴史文化の日」を制定します。
- 沖縄独自の伝統文化を支え基盤を整備し、新たな文化創造を支える基盤を構築します。
- 空手会館の有効、ユネスコの無形文化遺産登録など、世界に知られる“空手・古武道の発祥地沖縄”の更なる発展の戦略を展開します。
- 沖縄文化の根源である“しまくとぅば”の保存・普及・継承に取り組みます。
- 沖縄の歴史・伝統行事・文化・芸能を教育として実践する施策に取り組みます。
- 伝統芸能保持者の力を結集するしくみをつくり、文化の保存・普及・継承、人材育成を図るとともに、鑑賞の機会をつくるなど新たな活用戦略を展開します。
- 沖縄の独自文化を見つめ育むなかで、多文化共生社会の構築を目指します。
- 琉球料理や琉球泡盛のユネスコ無形文化財登録による沖縄独自の食文化をの普及に努めます。
- 空手会館の整備、ユネスコの無形文化遺産登録など、世界に知られる“空手・古武道の発祥地沖縄”の更なる発展の戦略を展開します。
- 沖縄文化の根源である“しまくとぅば”の保存・普及・継承に取り組みます。
- 沖縄の歴史・伝統行事・文化・芸能を教育として実践する施策に取り組みます。
- 伝統芸能保持者の力を結集するしくみをつくり、文化の保存・普及・継承、人材育成を図るとともに、鑑賞の機会をつくるなど新たな活用戦略を展開します。
- 沖縄独自の伝統文化活動を支える基盤の形成に取り組みます。
- 沖縄が有する新たな文化的創造を支える基盤を構築します。
- 沖縄の独自文化を見つめ育むなかで、多文化共生社会の構築を目指します。

## 9

## 医療の充実・健康福祉社会の実現

- 災害拠点病院の強化に取り組みます。
- 固定翼機の救急救助体制に取り組みます。
- ドクターカーの導入に取り組みます。
- 不妊治療の充実強化に取り組みます。
- 看護師教育の助成金の充実に取り組みます。(就学資金の市町村統一 返済なし制度)
- 医師・看護師不足を解消する為の育成確保に取り組みます。
- ギャンブル依存症の未然防止と対策に努めます。
- 社会福祉協議会の役割を再検証し、連携を密にし、地域福祉向上に努めます。
- 胎児へのリスクを軽減する為、妊産婦への口腔ケア・歯科治療の無料化に努めます。
- 東洋医学技術の導入促進を図ります。
- 少子高齢化社会の時代を見据えた、保健・医療・福祉政策を実行します。
- 平均寿命日本一を取り戻すため、県民の健康意識高揚や健康づくりに取り組みます。
- 生活習慣病予防対策、歯や口の健康増進対策、心の健康づくりに取り組みます。
- こども医療費無償化、こども医療の充実に取組みます。
- スポーツアイランド沖縄の形成を目指し、市町村と連携した戦略を展開します。
- 母子保健対策として、特に周産期医療体制を強化するとともに、小児医療支援の拠点整備をすすめ、妊産婦や乳幼児等の保健・医療体制の充実に努めます。
- 地域医療連携体制の構築による医療体制の整備を図り、かかりつけ医制度の普及と医療機関のネットワーク化を進めます。
- 産婦人科医師不足を解消するため医師・看護師の育成確保に取組みます。
- 琉球大学医学部附属病院と連携して国際医療拠点を形成し医療振興を図ります
- ドクターヘリなど救命救急医療体制の充実化を図ります。(病院施設内にヘリポート設置)
- 県立病院の経営形態を維持し充実強化を図るとともに、離島医療、救命救急医療、急性期医療、高度・特殊医療機能強化等の施策に取り組みます。

- 感染症対策・難病対策を強力に推進します。
- メンタルヘルス・自殺予防対策を強力に推進します。
- 危険ドラッグ(脱法ハーブ)など有害薬物の規制条例を制定し薬物乱用対策に取り組みます。
- AED設置普及を強化し、救急救命体制を整備します。
- 障がいのある方の支援を保健・医療・就業・スポーツや文化活動など多方面から市町村や地域・関係機関と連携して推進します。
- 障がいのある方に対する職業的自立を後押し、スタッフの確保対策を促進します。
- 沖縄の特殊事情に起因する国民健康保険制度の健全化に向け、市町村と連携しながら確実な国の財政支援を求めます。
- 介護従事者の雇用、労働環境などの処遇の改善に努めます。
- 地域福祉の拠点を担う沖縄県社会福祉事業団の運営を適切に支援します。



## 10 子育て・高齢者施策の推進

- 認可外保育園施設の支援拡充強化(建物を含む)に取り組みます。
- 障がい児施策の充実に取り組みます。
- 社会福祉協議会の役割を再検証し、連携を密にし、地域福祉向上に努めます。
- 認可外保育施設への助成金の早期交付手続きと支援拡充を図ります。
- 企業主導型保育施設の在り方を検証し、市町村と連携を図り子供の安心・安全保育に努めます。
- 待機児童解消に向けて、市町村と連携して保育所整備の支援を実施します。
- 2022年までに待機児童ゼロを実現するとともに、保育の質の向上を図ります。
- こどもの貧困対策計画を推進し、こどもの貧困の解消に取り組みます。
- 幼児教育の無償化を目指して取り組みを進めます。
- 病時及び病後児保育への支援を拡充します。
- 放課後児童の安心安全を守るために児童クラブに対する支援を広げます。
- 関係機関との連携を深めながら、発達障がい児に対する支援を強化します
- 児童虐待の予防と再発防止のため、児童相談所の機能の充実に努めます。
- 子ども・子育て支援新制度に向けた取り組みを充実させ、市町村と連携して実施します。
- 新たな基金の創設により、離島の子ども達の本島への遠征費用や、県内の子ども達の全国大会などの県外派遣費用を助成します。
- 保育士就学支援・保育士処遇改善等、保育士の質の向上育成充実(給与、待遇)に取り組み保育士不足への対策を行います。
- 地域連携により子ども・若者の育成支援のため関係機関のネットワークを構築します。
- 要保護児童等への支援やひとり親家庭等の自立支援に取り組みます。
- 障がいがある方、要介護高齢者、乳幼児とその家族の支援ネットワーク化を図ります。
- 市町村との連携により高齢者に対する地域包括ケアシステムの構築を進めます。
- 認知症(若年含む)対策として認知症対応型共同生活介護施設の整備や認知症の高齢者を支える地域包括ケアシステムの充実に努めます。

- 高齢者の経験や知識を活用した社会参加の促進を市町村、学校、自治会と連携して推進します。
- 公営住宅での高齢者住宅を確保を進めるとともに、高齢者向け住宅、シルバーハウジングなどの整備を促進し、老人ホームや介護福祉施設の整備を進めます。

## 11 安心・安全で快適な社会づくり

- 公共交通バス路線の抜本的見直しを図り、県民の利便性向上に努めます。
- 学生・高齢者のバス運賃への定額パスの導入を図ります。
- インターネット犯罪から青少年を守る取り組みを図ります。
- サイバー犯罪から県民を守ると取り組みを図ります。
- レンタルサイクルの導入を促進します。
- サイクルロードの整備促進を図ります。
  
- 大規模災害に備え消防防災体制及び危機管理体制を国・市町村及び民間事業者と連携して取り組みます。
- 災害に強いまちづくりの構築のため、上下水道・道路・港湾・漁港・空港・ダムの耐震化、老朽化対策及び治水・浸水・土砂災害対策に取り組みます。
- 密集市街地等においては、老朽建物対策、狭あい道路の整備、防災都市公園等の整備に取り組み防災機能の強化を図ります。
- 防災対策として、学校、福祉施設、保育所、民間建物などの耐震化を推進します。
- 地震・津波対策は市町村と連携して、自助・共助・公助の県民意識の普及、民間施設との津波避難ビル協定の推進、被災地における救援・救護・災害応急・災害復興対策に取り組みます。
- 学校・警察・地域の連携による非行防止、学校・福祉・地域の連携による児童生徒を取り巻く家庭環境等の改善に取り組みます。
- 警察との連携や協働のまちづくりにより「安心・安全に暮らせる地域づくり」を行います。
- 相談支援センターやワンストップ支援センター等の強化や関係機関の連携により、細やかなDV対策を行います。
- 飲酒運転根絶を絶対目標として、交通安全活動に取り組みます。
- 犯罪被害者支援の充実強化を図ります。
- すべての人が安心して暮らせるようハード・ソフトのバリアフリー化を推進します。
- 高齢者、障がいのある方、低所得者などへの住宅確保の支援システムを進めます。
- 食品等の監視指導により安心・安全を提供し、保健衛生の推進に取り組みます。
- 不発弾処理対策については国の責任による問題解決を強く求めます。

## 12 離島力の向上

- 沖縄本島と離島のガソリン価格差の解消を図ります。
- 離島運送費の低減化を図ります。
- 離島の物価を本島並みにする施策を図ります。
- 離島における交通・水道料金などの生活コスト低減を図るよう取り組みます。
- 離島出身の生徒のための寄宿舎を整備するとともに、相談員の配置など日常生活を支える幅広い支援を行います。
- 離島の上下水道・水資源・廃棄物処理などの生活環境基盤整備を更に推進します。
- 離島における急患空輸体制及び医師不足など医療サービス対策に取り組みます。
- 離島航空運賃を引き下げするため割引運賃制度や空港着陸料の減免等を進めます。
- 離島船舶航路を維持するための経営安定化を支援するとともに、船舶運賃の割引制度の導入を図ります。
- 下地島空港については離島振興に資する有効活用が図られるよう取り組みます。
- サトウキビをはじめとする離島の農業を維持するとともに、島々の特産品を活かした多様な産業を育成、支援します。
- 島々の伝統文化を活かした音楽、芸能、デザインファッションなど、クリエイティブ産業の担い手を育成するための支援を強化します。
- 陶器、磁器、染色織物など、島々の伝統工芸産業の振興を図ります。
- 廃家電リサイクル料金の差額を解消するよう関係機関への働きかけを強化します。
- 海岸漂着ごみ問題の抜本的な対策を講じるよう国へ対応を求めます。

## 13 教育振興と国際交流・協力の推進

- 高校の中途退学者学減少に取り組みます。
- 小中高のいじめ対策に取り組みます。
- 市町村と連携し幼小中高のトイレの洋式化を進めます。
- 自治会・公民館を活用した子どもの居場所づくりを進めます。
- 学校施設への地域交流室の設置を促進します。
- 沖縄独自の文化であるエイサー・空手等の保存継承に結びつく教育カリキュラムを構築する。
- きめ細やかな教育指導が可能となる30人以下学級、少人数学級を推進します。
- 教職員の全国並みの正規雇用化を目指し、取り組みます。
- 市町村と連携し幼小中学校へのクーラー設置を進めます。
- 躍進した全国学力テストの結果を維持し、さらに向上させるよう確かな学力を身につける教育を推進します。
- 私立学校および各種専門学校の支援、連携を進め、幅広い教育振興を図ります。
- 秋田県の先進事例を踏まえつつ、沖縄の特性に応じた沖縄教育モデルを創ります。
- OB教員と連携し、ひとりひとりに対するきめ細やかな学習指導を行い、個々の習熟度を確実にあげる教育を進めます。
- 給付型奨学金の拡充を図り大学進学率を高めます。
- 多言語教育を進めるとともに国際社会、情報社会に対応した教育を推進します。
- 豊かな心とたくましい体を育み、家庭や地域の教育機能の充実に取り組みます。
- 地理的・経済的要因による教育機会の不均衡や教育格差を無くすよう取り組みます。
- 新県立図書館の早期整備及び市町村図書館のネットワーク化に取り組みます。
- 協働のまちづくりと連携し、地域に根ざした魅力ある学校づくりを推進します。
- 観光交流・国際会議の誘致等を通して、学術・文化・友好親善の国際交流ネットワークを構築します。
- 世界のウチナーンチュ大会を継続的に開催し、ネットワークの継承・拡充を図ります。
- 世界、特にアジアを中心に国際協力・貢献活動を展開します。
- 国際感覚に富む人材を育成し、沖縄のソフトパワーで国際交流の拠点を目指します。

## 14 基地問題の解決と返還基地の跡地利用

- 建白書の精神に基づき、普天間基地の閉鎖・撤去、辺野古新基地の建設・オスプレイ配備に断固反対します。
- 基地問題の解決に向けて、ワシントンに駐在員を配置し情報収集および情報発信に努めます。
- 日米地位協定の抜本的な見直しを要求します。
- 米軍機の激しい爆音問題、米軍人軍属による犯罪、米軍基地から派生する環境問題の抜本的な解決に取り組みます。
- 所有者不明土地問題・沖縄戦没者遺骨収集問題について国の責任による問題解決を基本に取り組みます。
- 駐留軍用地の返還前調査(文化財・自然環境)を積極的に実施します。
- 基地返還に向けて、市町村、地権者と連携した跡地利用計画を策定し、その計画の事業推進について国の支援を求めています。
- 軍用地跡地における産業振興及び国際交流・貢献拠点の形成に向け取り組みます。

## 15 沖縄から世界へ、平和の発信

- ノーベル平和賞の呼び声も高い憲法9条の精神を尊重し世界平和を希求します。
- 沖縄からオリンピック・パラリンピックの大舞台で活躍する県出身選手の育成支援に取り組めます。
- 沖縄国際アジア音楽祭、沖縄国際映画祭、沖縄国際文化芸術祭など国際大会の拠点化を目指し、ソフトパワーで平和を発信する施策を展開します。
- 「沖縄平和賞」の意義の広めながら国内外に幅広く平和を発信します。
- 平和・人権協力外交を世界に向けて展開します。
- 世界平和の礎となる国際機関の誘致に取り組めます。

## 県民とともに貫く、3つのNO!!

沖縄の明るい未来に大きな影を落とす危険な動きには断固反対します。県民とともにレッドカードを突きつけ、人々が心豊かに暮らすことができる「ふるさと・沖縄」を守ります。



### 1. 新基地建設・オスプレイ配備

新たな基地建設を許せば、自らその建設に加担したことにほかなりません。これから先、50年、100年もの間、子や孫の世代に基地被害を押し付けるばかりでなく、彼らの批判の口さえ封じることになります。過重な基地負担は速やかに解消されなければなりません。美ら島・沖縄に新基地・オスプレイは要りません。新基地建設・オスプレイ配備に断固反対します。



### 2. 不当な格差

長く景気が低迷するなか、労働環境に賃金格差、非正規雇用など重い空気が広がりました。未来に希望が持てず、結婚を躊躇する若者さえいます。ひとつの格差は次の格差に連鎖し、将来への展望をも失います。人口減少社会に対処するためにも、若者から笑顔を消してはならないのです。美ら島・沖縄に不当な格差は要りません。不当な格差に断固反対します。



### 3. 原発建設

福島原発事故は、一瞬で人々の平穏な生活を破壊しました。今なお多くの方々が愛するふるさとを追われています。沖縄に原発がおかれ、万が一事故が起これば、小さな島であるがゆえに、その被害は甚大となります。「フクシマの悲劇」は決して他人事や過去の事として見過ごすことはできないのです。美ら島・沖縄に原発は要りません。原発建設に断固反対します。



## 重点 施策

# 沖縄の未来へ夢が広がる、 10のYES!!

県民の英知を結集してつくられた「沖縄 21 世紀ビジョン」。那覇市長として、県市長会長として、将来を展望した私自身の熱い想いを込めてきました。経済・農林水産業の振興、産業基盤の整備、教育・福祉・医療の充実、環境の保全、観光・文化の振興など、このプランの実現に向け全力投球します。あわせて、沖縄に暮らす人々の夢が、沖縄の次代を担う子ども達の夢が広がる10の重点施策に取り組みます。

1

## アジア経済戦略構想の実現

成長著しいアジア経済のダイナミズムが沖縄に近づいています。巨大なマーケットの中心に位置する沖縄の地理的優位性を活かし、経済発展の恩恵を享受する「アジア経済戦略構想」を創り上げ、同構想の実現に取り組みます。

2

## 次世代型交通ネットワークの構築

環境や交通弱者に優しいLRTなどの整備により、南北を縦貫する鉄軌道と各域内の循環路線を結びます。定時定速の快適、気軽な移動手段として、それぞれ地域の活力の原動力となる次世代型交通ネットワークを構築します。

3

## こども環境日本一の実現

こども目線の施策を推進します。こどもの貧困対策、待機児童ゼロ、認可外保育所、児童クラブ、発達障がい児に対する支援を拡大するとともに、きめ細やかな教育指導ができる30人学級や少人数学級の導入を推進します。

4

## 沖縄発 オリンピック・パラリンピック選手の育成支援

沖縄の青少年達がスポーツで大いに輝いています。国民に大きな勇気を与えてくれるオリンピック・パラリンピックが再び我が国で開催されるのに合わせ、沖縄から羽ばたき、世界の大舞台で活躍する選手の育成支援に取り組みます。

5

## 地域・離島・こども元気創造基金の創設

自治会、老人会、婦人会、青年会、子ども会などの活動費、児童生徒の沖縄本島、全国大会等への遠征・派遣費用を助成する基金を創設します。離島の魅力を体感し、その絆を深めるための先島版「島たび助成」を行います。

## 6 市町村との連携・住民目線のまちづくり

市長としての長い経験から、市町村の事情に明るく、それぞれの立場を理解することができます。住民サービスの最前線にある市町村の真摯な声に寄り添いながら、住民目線で、市町村との連携によるまちづくりを進めます。

## 7 クルーズ船バース増設整備・母港化推進

那覇港、石垣港は全国でも有数のクルーズ船寄港実績を誇ります。20万トン超級の接岸が可能なバースの増設を進めるとともに、沖縄発着のルート開発により、沖縄観光の裾野が広がるクルーズ船の母港化を推進します。

## 8 環境共生アイランド・再生可能エネルギーの推進

沖縄はエネルギー先進地域として大きく飛躍する可能性があります。宮古島での先駆的事例を支援しつつ、環境共生アイランドを目指しながら、増大するエネルギー需要に応える再生可能エネルギーの推進に本格的に取り組めます。

## 9 J1対応サッカー場とボールパークの整備

J1対応の本格的なサッカー場を建設するとともに、10数面のサッカー場を多面的に網羅した「ボールパーク」を整備し、国内外強豪チームのキャンプ誘致などによりスポーツコンベンションアイランドとしての新しい地位を築きます。

## 10 「しまくとぅば」の保存、普及と継承

「生まれ島ぬ くとぅば 忘しりーねー 国ん 忘しりゆん」との黄金言葉の示す通り、しまくとぅばは沖縄の伝統文化とアイデンティティの根源です。先祖から受け継いだ「しまくとぅば」の保存と普及、次世代への確実な継承に取り組めます。